

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史A	学科 学年	普通科 1年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

『現代の世界史 改訂版』（山川出版社）

『グローバルワイド最新世界史図表 二訂版』（第一学習社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題プリントなどで自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組もうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。

各100点）8割、平常点（課題プリントの取組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。基礎を踏まえながら、発展的に学習し、近現代史を中心に行います。

また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（世界史A 1年普通科 2単位） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容		学習のねらい	考查			
一 学 期	4	第Ⅰ部 一体化する世界 諸地域世界の特質 東アジア世界 南アジア世界・東南アジア世界 西アジア世界 ヨーロッパ世界 陸と海の交流	9	(世界の諸地域の民族・宗教、地域の交流について概観) ・世界各地でそれぞれの自然や環境に適した多様で独自の世界が形成されたことを学ぶ。 ・それぞれの世界の特質と政治構造および特徴的な文化を概観する。 ・陸と海の交流については、陸と海のネットワーク、諸地域世界の交流の観点から、その全体像を学ぶ。特に諸地域の交流が深まるなか、世界が一体化していく様子を理解する。	中間 考查 ①			
	5							
	6	第Ⅱ部 現代世界と日本 導入 現代社会へ向かう世界 第6章 帝国主義とアジアの民族運動	14	・欧米列強が第2次産業革命の進展により植民地拡大に迫られ、帝国主義が成立したことを理解する。 ・一方、列強の国内では資本家と労働者の緊張関係が高まり、労働運動が活発化したこと、それに対して非欧米地域では近代化による自立の動きがおこったことを理解する。	期末 考查 ①			
7								
8								
二 学 期	9	第7章 二つの世界大戦 ①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③民族主義の新展開	13	・第一次世界大戦について、その性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について理解する。 ・国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、について理解し、国際社会の枠組みの変化を学ぶ。 ・第一次世界大戦がアジアに及ぼした影響について学ぶ。	中間 考查 ②			
	10	第7章 二つの世界大戦 ④世界恐慌とファシズム ⑤第二次世界大戦				14	・アメリカから始まった世界恐慌によってファシズムが台頭してきたことを学ぶ。 ・ファシズム国家と反ファシズム国家が対立し、再度の世界大戦に突入した過程を理解する。 ・冷戦という東西陣営の対立の背景、実態や政治・経済の世界的影響を学ぶ。 ・アジア・アフリカ諸国が独自の路線や立場を守ろうとして第三世界を形成していくことを理解する。	期末 考查 ②
	11 12	第8章 冷戦の時代 ①冷戦の形成と第三世界の登場 ②核戦争の危機						
三 学 期	1	第8章 冷戦の時代 ③多極化と緊張緩和 ④冷戦の変質 ⑤冷戦の終焉 ⑥冷戦下の日本	14	・冷戦から緊張緩和にむかう流れの中で、ソ連が崩壊したこと、それによる東欧社会主義圏も消滅した過程を学ぶ。 ・冷戦が終わり、世界の国や地域が多面的に関係を結び合い、相互関係を深めていくグローバル化の様子を学ぶ。 ・変貌する現世界の状況を学び、現在の諸問題を考察する。	学年 末			
	2							
	3	第9章 グローバル化する世界						
年間時数計			64 時間 (55分授業)					

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史B	学科 学年	普通科（文系）2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

『詳説世界史 改訂版』（山川出版社）
『アカデミア世界史』（浜島書店）
『要点整理ゼミナール世界史』（浜島書店）
『世界史用語集改訂版』（山川出版社）
『世界史重要語句 Check List』（啓隆社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特徴を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。各100点）8割、平常点（課題プリントへの取り組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。基礎を踏まえながら、発展的に学習し、古代から中世までを中心に学習します。また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（ 世界史B 2年普通科文系 2単位 ） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容		学習のねらい	考查
一 学 期	4 5	序 先史の世界 第1部 第1章 オリエントと地中海世界 古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界	9	・人類の誕生、農耕牧畜の始まり、文明の成立の過程を学ぶ。 ・オリエントと地中海世界の風土およびその展開を理解する。	中間 考查①
	6 7 8	第2章 アジア・アメリカの古代文明 インドの古典文明 東南アジアの諸文明 中国の古典文明 南北アメリカ文明	14	・南アジアの形成過程、社会・国家などの発展について学ぶ。 ・東南アジアの社会・文化について中国文化・インド文化の影響と関連づけて理解する。 ・古代中国の社会・文化について周辺地域と関連づけて理解する。	期末 考查①
二 学 期	9 10	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 草原の遊牧民とオアシスの定住民 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展 イスラーム世界の形成 イスラーム世界の発展	13	・東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程、及び両世界の密接な関係について理解する。 ・イスラーム世界の成立の背景と特質について理解する。	中間 考查②
	11 12	インド・東南アジア・アフリカの イスラーム化 イスラーム文明の発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立	14	・イスラーム世界の拡大について理解する。 ・ゲルマン人の活動やイスラム勢力の進出によって地中海世界が解体したことを理解する。	期末 考查②
三 学 期	1 2 3	西ヨーロッパ中世世界の変容 西ヨーロッパの中世文化 第6章 内陸アジア・東アジア世界の展開 トルコ化とイスラーム化の進展 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国	14	・キリスト教を基盤とした新しいヨーロッパ世界が形成され、変動していった過程を理解する。 ・ユーラシア大陸の北部・中央部の砂漠、草原地帯のトルコ人 モンゴル人の生活を概観し、国の形成過程を理解する。	学 年 末 考 査
年間時数計			64 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 A	学科 学年	普通科（文系） 2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

- (1) 日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付け、現代の諸問題と近現代の歴史的事象との結びつきに気付く。
- (2) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。

2. 教科書・副教材等

教科書「現代の日本史 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 二訂版」第一学習社

3. 学習する上での留意点

- (1) 日本の近現代史を、世界史や現代社会と関連付けて学ぶこと。
- (2) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (3) 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いてメモを取り自分なりのノート作りを行う。
- (4) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックする。

4. 評価について

評価は次の4観点から行う。

- (1) 関心・意欲・態度
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
- (2) 思考・判断・表現
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。
- (3) 資料活用の技能
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。
- (4) 知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ5回の定期考査90%、授業の取り組み・提出課題・小テスト10%で評価する。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。特に日本の近現代史を学ぶことによって、現在起こっている問題の原因が見えるはずです。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（2年普通科文系 日本史A）

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考查
一学期	4	巻末資料 開国までの歴史・概観と年表	4	近代国家ができるまでの日本の歴史（古代から開国以前まで）の流れをおおまかに確認する。	中間 考查
	5	第1章 開国と維新	7	ペリー来航に始まる幕末期の大変動を幕藩体制の崩壊期としてとらえ、また、その後の明治維新、近代日本の建設について学ぶ。	
		6	第2章 近代国家の形成と発展	11	欧米を目標として近代化を推進してきた明治日本が、条約改正、日清日露の両戦争を通じて如何に変貌を遂げたかを学ぶ。
	7				
二学期	9	第3章 産業化の推進と 国民生活の変化	8	産業革命と資本主義の確立によって国民の生活がどのように変化したのかを学ぶ。	中間 考查
	10	第4章 第一次世界大戦と 大正デモクラシー	10	20世紀に入り、欧米列強と肩を並べるまでに発展した日本が、帝国主義国家としてどう世界と関わってきたかを学ぶ。	
	11	第5章 第二次世界大戦と日本	7	昭和初期における経済の混乱と国際関係の中で、日本が戦争へとつき進んでいく過程と、アジアや太平洋地域をまきこんだ戦争が引き起こした結果について学ぶ。	期末 考查
三学期	12	第6章 占領下の日本	5	占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目してわが国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について学ぶ。	学年 末 考 査
	1	第7章 日本の自立と経済成長	6	戦後の経済復興、高度経済成長、経済の国際化、生活意識や価値観の変化に着目して、日本経済の発展と	
	2	第8章 現代の世界と日本	6	国民生活の変化について学ぶ。	
	3				
合計			64時間(55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 B	学科 学年	普通科（文系）2年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

- (1) 我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- (2) 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- (3) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。
- (4) 基礎的事項を踏まえ、史料を見る力を養い、歴史の展開について考察し自分の考えを表現することができるようになることを目指す。

2. 教科書・副教材等

教科書「詳説日本史 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 二訂版」第一学習社
 問題集「ポテンシャル日本史 基礎力養成編」山平商会 出版事業部
 用語集「ポテンシャル日本史付録用語Best Select20」山平商会 出版事業部

3. 学習する上での留意点

- (1) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (2) 授業は主に学習プリントをベースに行う。板書事項を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いて必要事項はプリントに書き込むなど、自分なりのノート(プリント)作りを行う。
- (3) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題プリントなどで自分の理解度をチェックする。
- (4) 定期考査とともに、授業内の小テストに向けての学習や模試の対策・復習にも力をいれる。

4. 評価について

評価は次の4観点から行う。

- (1) 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開の対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
- (2) 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できる。
- (3) 資料活用の技能
我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。
- (4) 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点をふまえ、5回の定期考査をベースに、授業の取り組み・提出課題・小テストなどを加味して評価する。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表 (2年普通科文系 日本史B)

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	12	遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目して、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させる。また文化財保護の重要性に気付かせる。	中間 考查
	5	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道	24	わが国において、国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化・天平文化に着目して古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	
	6	3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形成			期末 考查
	7	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	12	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察させる。	
二 学 期	9	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退	22	武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、隆盛国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立背景に考察する。	中間 考查
	10	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭	18	日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジアとの関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	
	11	3. 室町文化 4. 戦国大名の登場			期末 考查
	12	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造	24	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。	
三 学 期	1	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展	14	幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。	学年 末 考 査
	2	3. 元禄文化	2		
	3				
合計			128時間(55分授業)		

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	政治・経済	学科 学年	普通科（文系） 2年
		履修 単位	3単位

1. 学習の到達目標

- ① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
- ② 大学受験に必要とされる基礎的な学力を身につける。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高校 政治・経済 新訂版』（実教出版）
副教材 『政治経済 資料 2019』（とうほう）
『NEW COM.-PASSノート 政治経済』（とうほう）

3. 学習する上での留意点

- ① 授業前に教科書を読んで内容を把握しておく。
- ② 授業では、教師の説明をよく聞き理解に努める。
板書を写すだけでなく必要事項はメモし、資料集なども活用してノート作りを工夫する。
- ③ 地歴・公民科の各科目をはじめ、さまざまな分野が関連してくるので不明な点は自分で積極的に調べる。また、わからないことは遠慮なく質問する。
- ④ 副教材を活用し、基本事項の定着に努める。

4. 評価について

- ・ 定期考査9割、平常点（課題の提出状況、小テストなど）1割という割合で評価を行う。
その際、次の4つの観点を踏まえることとする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとしている。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からひとこと

- ① 新聞・テレビ・書籍などを通じて今日的な話題に興味関心を持ち、問題意識を高めましょう。
- ② 日頃から問題演習を自発的に行い、知識の定着に努めましょう。
- ③ 生徒の理解状況により内容・進度は変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則 1 政治と法 2 民主政治と人権保障の発展 3 国民主権と民主主義の発展 4 世界の政治体制	7	・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やその発展について理解する。 ・世界の主な政治体制について理解する。	中間 考查
	5	第2章 日本国憲法の基本的性格 1 日本国憲法の成立 2 平和主義 3 基本的人権の保障 4 人権のひろがり	12	・日本国憲法の成立過程や特徴について理解する。 ・平和主義について理解するとともに、日本の安全保障政策について理解する。 ・憲法に規定する基本的人権のみならず新しい人権について理解する。	
	6	第3章 日本の政治機構 1 立法 2 行政 3 司法 4 地方自治	12	・国会、内閣、裁判所や地方自治などの日本の統治機構のしくみと役割について理解する。	
	7	第4章 現代日本の政治 1 戦後政治のあゆみ 2 選挙制度と政党 3 政治参加と世論	6	・日本の政党政治や選挙制度の特質、マス・メディアの役割と問題点、世論の果たす役割などを理解しながら、政治への関心を高める。	
	8 9	第5章 現代の国際政治 1 国際政治の特質と国際法 2 国際連盟と国際協力 3 現代国際政治の動向 4 核兵器と軍縮 5 国際紛争と難民 6 国際政治と日本	12	・国際社会や国際法に関する基本的な理解を深める。 ・国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割や抱えている課題について理解する。 ・戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争や軍縮問題、難民問題などを理解する。	中間 考查
二 学 期	10	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容 3 グローバル化と現代資本主義経済 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長	10	・資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較しながら、現代経済の特質について理解する。	期末 考查
	11	4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 戦後復興と経済成長 2 経済の停滞と再生 3 日本の中小企業と農業	12	・戦後日本経済がどのように発展してきたかについて理解する。また、バブル経済やその崩壊、21世紀の日本経済の動向について理解する。	
	12	4 国民の暮らし 5 環境保全と公害防止 6 労使関係と労働条件の改善 7 社会保障の役割	8	・労働問題、社会保障や環境保全と資源・エネルギー問題といった日本経済が直面する課題について理解する。	
	三 学 期	1	第4章 世界経済と日本 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化	8	・貿易の意義や国際収支、為替相場の仕組みといった国際経済の基本的な事項を理解する。 ・戦後の国際経済の流れを踏まえ、地域統合や経済摩擦、南北問題など国際経済を取り巻く課題を理解する。
2		3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 経済協力と人間開発の課題	6		
3		第3編 現代社会の諸課題 ① 地域社会の変貌と住民生活 ② 中小企業の新しい変化 ③ 農業、農村と食料、環境問題 ④ 雇用と労働をめぐる問題 ⑤ これからの社会保障のあり方 ⑥ 地球環境の保全と経済成長 ⑦ 原子力と再生可能エネルギー ⑧ 人種・民族問題 ⑨ 国際経済格差の是正と国際協力 ⑩ 国際社会における日本の立場と役割	3	①～⑤および⑥～⑩の課題のなかから、それぞれいくつか選択して学習する。	
年間時数計			96 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地理 B	学科 学年	普通科（理系） 2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料 2019』（東京法令出版社）
- ・副教材『2019データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点(課題プリントへの取り組み、提出状況、小テスト)を2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。
 - ①関心・意欲・態度
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。
 - ②思考・判断・表現
現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
 - ③資料活用の技能
地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
 - ④知識・理解
現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第Ⅰ部 様々な地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査	6	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の地図の活用や地理情報の地図化などの学習活動をとおして、現代世界の地理的事象をとらえるための技能を身につける。 大地形の特徴とプレートテクトニクス理論を基盤に、地形の成り立ちを理解する。 	中間考查
		第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 世界の地形			
	5	1節 世界の地形	6	<ul style="list-style-type: none"> 河川をつくる平野地形のような小地形と生活の関係を考察する。 	期末考查
	6	2節 世界の気候	7	<ul style="list-style-type: none"> 気候要素と気候因子の因果関係をおさえる。 世界の気候には地域性と共通性があることをケッペンの気候区分を通して理解する。 	
	7	3節 日本の自然の特徴と人々の生活 4節 環境問題	6	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然の特徴を理解し、生活との関わりを考察する。 様々な環境問題があり、その原因と対策を理解する。 	
8					
二 学 期	9	2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化 2節 世界の農林水産業 3節 食料問題	6	<ul style="list-style-type: none"> 農業が自然の制約を大きく受けること、および工業は、近年国際分業が進展するとともに産業のグローバル化が進んでいることを理解する。 自然環境の制約を受ける農業が、どのように発達し、変化してきたかその過程をとらえる 農業地域はなぜそのような場所に発達し、どのような特徴があるのかとらえる。 	中間考查
		4節 世界のエネルギー・鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 世界の工業			
	11		7	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーや鉱産資源の分布の特色、生産と消費の偏在について理解を深める。 資源は経済活動に欠かせないものであり、とくに石油はしばしば紛争の火種となってきた石油をめぐる情勢をとらえ、課題を考察する 工業を分類するとともに近代工業の特徴を発達や立地の視点から捉える。 	期末考查
	12	7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信	6	<ul style="list-style-type: none"> 世界では先進国を中心に第3次産業が経済の中心となっている。第3次産業の現状と進展の様子をとらえる。 航空交通をはじめ、様々な交通機関の発達と課題を考察する。 	
三 学 期	1	9節 現代世界の貿易と経済圏	6	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品や原料の生産国を調べ、現代の貿易の特徴をとらえるとともに課題を考察する。 	期末考查
	2	3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題	6	<ul style="list-style-type: none"> 世界人口には地域的な偏りがあるが、総じて産業革命以降急速に増加してきた。このような人口の動向をとらえる。 発展途上国での人口爆発をはじめ、世界の様々な人口問題を理解する。 	
	3		2		
時数計			64時間 (55分授業)		

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	現代社会	学科 学年	普通科（理系）2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。また、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）
副教材 『フォーラム現代社会 2019』（とうほう）
『NEW COM. -PASS ノート現代社会』（とうほう）

3. 学習する上での留意点

- ①授業前に教科書を読んで内容を把握しておく。
- ②授業では、先生の説明をよく聞き時間内での理解に努める。
板書を写すだけでなく必要事項はメモし、資料集なども活用してノート作りを工夫する。
- ③地歴・公民科の各科目をはじめ、さまざまな分野が関連してくるので不明な点は自分で積極的に調べる。また、質問があれば積極的に質問する。
- ④副教材を活用し、基本事項の定着に努める。

4. 評価について

- ・定期考査9割、平常点（課題の提出状況、小テストなど）1割という割合で評価を行う。
その際、次の4つの観点を踏まえることとする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者から一言

- ①新聞・テレビ・書籍などを通じて、常に今日的な話題に興味関心を持ち、問題意識を高めましょう。
- ②日頃から問題演習を自発的に行い、知識の定着に努めましょう。
- ③生徒の理解状況により、内容・進度は変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查		
一学期	4	第1編 現代社会の諸課題 第1章 地球環境を考える 1 地球環境問題 2 地球環境問題への取り組み 3 資源・エネルギー・人口問題 第2章 科学技術の発達と生命 1 現代の医学が問う生死のあり方 2 生命科学の発達と倫理 3 高度情報社会の現状と問題点	4	・地球温暖化をはじめとする地球環境問題や資源、エネルギー、人口問題について理解する。 ・生命科学や情報技術の発達にともなう生活の変化や、それにとともなう倫理的問題について理解する。	中間 考查		
		5		第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己形成 1 生涯における青年期の意義 2 青年期と自己形成の課題 3 職業生活と社会参加 4 現代社会と青年の生き方 第2章 他者と共に生きる倫理 1 ギリシアの思想 2 宗教の教え 3 人間の尊厳 4 人間と自由		6	・青年期の意義や青年期の心理について理解する。 ・職業や社会参加の意義について理解する。 ・哲学や宗教の役割について理解する。 ・さまざまな宗教や哲学について理解する。
				6			5 個人と社会 6 人間性の回復 7 人間への新たな問い 8 日本の伝統文化と外来思想の受容 第3章 現代の国家と民主政治 1 人権保障の発展と現代社会 2 国民主権と民主政治の発展
	二学期	7	第4章 日本国憲法と国民生活 1 日本国憲法の成立 2 平和主義と日本の安全 3 基本的人権の保障 4 人権の広がり		6	・日本国憲法の成立過程と三大原理について理解する。 ・平和主義と日本の安全保障について理解する。 ・日本国憲法に規定する基本的人権とともに、新しい人権について理解する。 ・国の統治機構としての国会、内閣、裁判所について理解する。	中間 考查
		8	5 政治機構と国民生活				
		9	6 人権保障と裁判所 7 地方自治 8 選挙と政党 9 政治参加と世論	7		・地方自治の理念としくみについて理解する。 ・選挙制度と政治のあり方について理解する。 ・政治参加の重要性について理解する。	
三学期	10	第5章 国際政治の動向 1 国際社会における政治と法 2 国家安全保障と国際連合 3 冷戦期の脅威と冷戦後の脅威 4 軍備競争と軍備縮小 5 異なる人種・民族との共存 6 国際社会と日本	6	・主権国家体制の確立と国際法について理解する。 ・安全保障の考え方の転換と国際連合の設立、そのしくみについて理解する。 ・戦後国際政治の動向と軍縮について理解する。 ・民族・地域紛争の要因とその克服について考える。	期末 考查		
		11		第6章 現代の経済社会と政府の役割 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動		7	・市場経済の機能と現代の企業の特徴について理解する。 ・景気変動の諸要因とその局面について理解する。
	12	5 金融機関の働き 6 政府の役割と財政・租税 第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題 2 中小企業と農業	6	・金融と財政のしくみと課題について理解する。 ・日本経済のあゆみと近年の動向について理解する。 ・中小企業、農業がかかえる問題について理解する。			
1		3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障		7	・日本の公害問題と対応について理解する。 ・消費者問題と被害に対する防止について考える。 ・雇用環境の変化と今日の労働問題について理解する。 ・社会保障のしくみと現状について理解する。		
		2			第8章 国際経済の動向 1 国際経済のしくみ 2 国際経済体制の変化 3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国 5 ODAと経済協力	6	・戦後の国際経済体制の変化と近年の動向について理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国が抱える問題について理解する。
3	第3編 共に生きる社会をめざして 持続可能な社会のために 排除しない社会へ 感染症の治療と予防	2	誰もが共生することができ、持続可能な社会のためには何が 必要かを考える。	学年 末 考 査			
年間時数計			64 時間(55分授業)				

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史B	学科 学年	普通科（文系）3年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

- 『詳説世界史 改訂版』（山川出版社）
『アカデミア世界史』（浜島書店）
『要点整理ゼミナール世界史』（浜島書店）
『世界史重要語句 Check List』（啓隆社）
『世界史用語集』（山川出版社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書4ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特徴を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。各100点）8割、平常点（課題プリントへの取り組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。近代からの歴史的流れを、地理的状況・国際関係・思想などを踏まえながら、多角的視点にたち、歴史を考えられよう学習します。

また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（ 世界史B 3年普通科文系 4単位 ） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容		学習のねらい	考査
一 学 期	4 5	第6章 内陸アジア・東アジア世界の展開 トルコ化とイスラーム化の進展 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国	22	・ユーラシア大陸の北部・中央部の砂漠、草原地帯のトルコ人、モンゴル人の生活を概観し、国の形成過程を理解する。	中間 考査 ①
		第7章 アジア諸地域の繁栄 東アジア・東南アジア世界の動向 清代の中国と隣接諸地域		・明の建国、統一と滅亡、清の建国と統一について理解する。	
	6 7 8	トルコ・イラン世界の展開 ムガル帝国の興隆と衰退 第9章 近代ヨーロッパの成立 ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス・宗教改革 主権国家体制の形成 第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出	26	・サファビー朝、ムガル帝国、オスマン帝国のイスラーム王朝の社会・文化について理解する ・近代ヨーロッパ成立について、ヨーロッパ世界の拡大、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の観点で、16世紀の世界の一体化の動きを学ぶ。 ・ヨーロッパ主権国家の展開を、商業主義と啓蒙専制主義ヨーロッパの海外進出、17～18世紀のヨーロッパ文化の観点からヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を学ぶ。	期末 考査 ①
二 学 期	9 10	第11章 欧米における近代社会の成長 産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン	25	・近代社会の成長を産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン時代の観点から経済的・政治的変革の中での産業資本主義と市民社会成立を学ぶ。	
	11 12	第12章 欧米における近代国民国家の発展 ウィーン体制 ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展 第13章 アジア諸地域の動揺 オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ 南アジア・東南アジアの激動 東アジアの激動	26	・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化について、理解を深める。	
三 学 期	1 2 3	第14章 帝国主義とアジアの民族運動 第15章 二つの世界大戦 第16章 冷戦と第3世界の自立	29	・ヨーロッパの動向が大きく世界の動きを決定付けた19世紀半ば以降の各国の政策とその影響、20世紀前半の2つの大戦をへて生じた新たな国際関係を学び、現在に通じる各国の情勢を多角的に学ぶ。	
年間時数計			128 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 B	学科 学年	普通科（文系）3年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

- (1) 我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- (2) 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- (3) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。
- (4) 基礎的事項を踏まえ、史料を見る力を養い、歴史の展開について考察し自分の考えを表現することができるようになることを目指す。

2. 教科書・副教材等

教科書「詳説日本史 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 初訂版」第一学習社
 問題集「ポテンシャル日本史 基礎力養成編」山平商会出版事業部
 用語集「ポテンシャル日本史付録用語Best Select20」山平商会出版事業部

3. 学習上の留意点

- (1) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (2) 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いてメモを取り自分なりのノート作りを行う。
- (3) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックする。
- (4) 定期考査とともに、朝テストに向けての学習や模試の対策・復習にも力をいれる。

4. 評価

評価は次の4観点から行います。

- (1) 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開の対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究しようとしている。
- (2) 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
- (3) 資料活用の技能
我が国の歴史や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用するとともに、情報を読み取ったり図表等にまとめたりしている。
- (4) 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、4回の定期考査の平均に朝テスト・課題提出の状況を加えて評価します。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（3年普通科文系 日本史B）

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考査
一 学 期	4	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	20	幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。	中間考査
	5	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵	38	開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降のわが国の近代化の推進過程について考察する。 条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、わが国の立憲国家としての展開を考察する。	期末考査
	6	3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係			
	7				
二 学 期	9	5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	10	国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発展や教育制度の拡充に着目して、近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその成立の背景について考察する。	中間考査
	10	第10章 近代日本とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代	36	政治や社会運動の動向、都市の発達と農山漁村の変化及び文化の大衆化に着目し、政党政治の発展、大衆社会の特色とその成立の背景について考察する。 国際社会の中の日本の立場に着目して第一次世界大戦前後の対外政策の推移や対戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察する。	期末考査
	11	5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦			
	12	第11章 占領下の日本	24	占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、わが国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について学ぶ。	
三 学 期	1	第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本		戦後の復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察する。	
	2				
	3				
合計			128時間(55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地理 B	学科 学年	普通科（文系）3年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料 2018』（東京法令出版社）
- ・副教材『2018データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評 価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をもとにする。

①関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からのひとこと

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查	
一 学 期	4	第Ⅱ部 4章 現代世界の系統地理的考察	15	<ul style="list-style-type: none"> 世界における衣食住の特徴と多様性、地域的差異について理解する。 民族の定義や特色、民族と国家の関係について理解する。 国家の形態・構成・規模は多様であること、また国際連合の役割や存在理由を理解する。 民族問題、領土問題の事例を挙げ、解決の難しさを理解する。 	中間考查	
		4章 生活文化、民族・宗教	16			
		1節 世界の衣食住				
		2節 民族と宗教				
	5	3節 現代世界の国家	16		<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查
		4節 民族・領土問題				
	6	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	9		<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	
		1章 現代世界の地域区分				
2章 現代世界の諸地域						
1節 地域の考察方法						
7	2節 東アジア	14	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查		
	3節 東南アジア					
8	4節 南アジア	9	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 			
	5節 西アジアと中央アジア					
二 学 期	9	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	14	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	中間考查	
		7節 ヨーロッパ	14			
	10	8節 ロシア	14	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查	
		9節 アングロアメリカ				
	11	10節 ラテンアメリカ	9	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 		
三 学 期	1	11節 オセアニア	9	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の日本の歴史を理解し、現代世界の地理的問題を把握する。また、解決策について考察する。 	期末考查	
		3章 現代世界と日本	9			
	2	1節 日本が抱える地理的な諸課題	3			
三 学 期	2	2節 日本の抱える課題の追究	3			
		3				
時数計			128時間 (55分授業)			

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	倫理	学科 学年	普通科(文系)3年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

- (1) 先哲（過去を生きた哲人・思想家）の思想や生き方を学ぶことを通して、一人ひとりが自らのよりよい生き方を主体的に考える力を身につける。
- (2) 広い視野にたって現代の社会についての理解を深めるとともに、社会について主体的に考察することを通して社会への積極的なかわり方、人間としてのあり方・生き方への自覚をもつ。
- (3) 民主的・平和的な国際社会の形成者として必要な人間としての資質を養う。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高等学校 新倫理 新訂版』清水書院
 資料集 『アプローチ倫理資料PLUS2019』東京法令出版社
 用語集 『用語集 倫理』清水書院

3. 学習上の留意点

- (1) 自分から、教科書を深く読んで理解する姿勢が大切。
- (2) 授業では、内容の理解とともに、自らの身近な視点に照らし合わせて考えることを習慣にする。板書を写すだけでなく、必要事項をメモし資料集等を活用して、より深く理解するための工夫を各自が行う。
- (3) 地歴・公民の各科目をはじめ、これまでに履修した教科のさまざまな分野が関連してくるので、不明な点は積極的に調べる。
- (4) 問題集を活用して、思想の要点を把握し、理解度を確認する。思想家の残した言葉やキーワードを中心に資料集を活用して原典にあたり、時代背景、関連する人物などについて系統的に理解するよう心がける。
- (5) 新聞・書籍などを通じて、倫理的話題に興味関心を持ち、問題意識を高める。

4. 評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。

5. 担当者から一言

現代社会においては、主体的に考え、みずからの方向を定めていく力を養うことがより強く求められています。先人たちの思想を学んで、よりよい自己のあり方・生き方について思索を深めていきましょう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成	4	豊かな自己形成に向けて、青年期の意義と課題を理解する。	中間 考 査
		第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学	10		
	5	第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教－愛の宗教 第2節 イスラーム－啓示と戒律の宗教	10	人生におけるギリシャ哲学、キリスト教、イスラム教のもつ意義について理解させ人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方についての理解を深める。	
		第3節 仏教－智慧と慈悲の宗教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	5		
	6	第3章 人生の知恵	5	人生における儒教、仏教、芸術のもつ意義について理解させ人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深める。	
		第4章 人生における芸術	2		
		第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳	12		
二 学 期	8	第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり	8	よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深める。	中間 考 査
		第6節 現代における理性の問題	6		
	9	第3編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と人々の考え方 第2節 仏教の伝来と隆盛 第3節 儒教の日本化	12	日本の人間観、自然観、宗教観などの特質について、日本の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら自己との関わりにおいて理解する。	
		第4節 近世町人文化と民衆の思想 第5節 国学と伝統文化 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	12		
	10	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と環境 第2章 家族・地域社会と情報社会 第3章 異文化理解と人類の福祉	14	倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力を身に付ける。	
		第4節 近世町人文化と民衆の思想 第5節 国学と伝統文化 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	12		
	三 学 期	12	テーマ別学習	28	
1		①生命倫理 ②環境倫理 ③家族・地域社会			
2		④情報社会 ⑤文化と宗教 ⑥国際平和と人類の福祉			
	3				

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地 理 B	学科 学年	普通科（理系）3年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料2018』（東京法令出版社）
- ・副教材『2018 データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『18サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。

①関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からのひとこと

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查				
一 学 期	4	第Ⅱ部 現代世界の系統地理 的考察 3章 人口、村落・都市 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	15	<ul style="list-style-type: none"> ・集落がどのようなところに立地し発展してきたかをとらえる。 ・都市の機能や地域構造およびさまざまな都市問題について理解する。 ・世界における衣食住の特徴と多様性、地域的差異について理解する。 ・民族の定義や特色、民族と国家の関係について理解する。 ・国家の形態・構成・規模は多様であること、また国際連合の役割や存在理由を理解する。 ・民族問題、領土問題の事例を挙げ、解決の難しさを理解する。 	中間 考 査				
		4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題	16						
	5	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域	16			<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期 末 考 査		
		1節 地域の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア							
		4節 南アジア 5節 西アジアと中央アジア							
	6								
	7		9						
8									
二 学 期	9	6節 北アフリカとサハラ以南 のアフリカ 7節 ヨーロッパ	14	<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	中 間 考 査				
		8節 ロシア	14						
	10	9節 アングロアメリカ	14			期 末 考 査			
	11	10節 ラテンアメリカ	9						
三 学 期	1	11節 オセアニア 3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題	9	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本の歴史を理解し、現代世界の地理的問題を把握する。また、解決策について考察する。 	期 末 考 査				
		2節 日本が抱える課題の追究	9						
	2		3						
3									
時数計			128時間 (55分授業)						

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史A	学科 学年	普通科学究コース1年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

『現代の世界史 改訂版』（山川出版社）

『グローバルワイド最新世界史図表 二訂版』（第一学習社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題プリントなどで自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組もうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。

以上の観点をふまえて、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。

各100点）8割、平常点（課題プリントの取組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。基礎を踏まえながら、発展的に学習し、近現代史を中心に行います。

また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（ 世界史A 1年普通科学究コース 2単位 ） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容		学習のねらい	考查
一 学 期	4	第Ⅰ部 一体化する世界 諸地域世界の特質 東アジア世界 南アジア世界・東南アジア世界 西アジア世界 ヨーロッパ世界 陸と海の交流	9	(世界の諸地域の民族・宗教、地域の交流について概観) ・世界各地でそれぞれの自然や環境に適した多様で独自の世界が形成されたことを学ぶ。 ・それぞれの世界の特質と政治構造および特徴的な文化を概観する。 ・陸と海の交流については、陸と海のネットワーク、諸地域世界の交流の観点から、その全体像を学ぶ。特に諸地域の交流が深まるなか、世界が一体化していく様子を理解する。	中間 考查 ①
	5				
	6	第Ⅱ部 現代世界と日本 導入 現代社会へ向かう世界 第6章 帝国主義とアジアの民族運動	14	・欧米列強が第2次産業革命の進展により植民地拡大に迫られ、帝国主義が成立したことを理解する。 ・一方、列強の国内では資本家と労働者の緊張関係が高まり、労働運動が活発化したこと、それに対して非欧米地域では近代化による自立の動きがおこったことを理解する。	期末 考查 ①
7					
8					
二 学 期	9	第7章 二つの世界大戦 ①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③民族主義の新展開	13	・第一次世界大戦について、その性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について理解する。 ・国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、について理解し、国際社会の枠組みの変化を学ぶ。 ・第一次世界大戦がアジアに及ぼした影響について学ぶ。	中間 考查 ②
	10	第7章 二つの世界大戦 ④世界恐慌とファシズム ⑤第二次世界大戦			
	11 12	第8章 冷戦の時代 ①冷戦の形成と第三世界の登場 ②核戦争の危機	14	・アメリカから始まった世界恐慌によってファシズムが台頭してきたことを学ぶ。 ・ファシズム国家と反ファシズム国家が対立し、再度の世界大戦に突入した過程を理解する。 ・冷戦という東西陣営の対立の背景、実態や政治・経済の世界的影響を学ぶ。 ・アジア・アフリカ諸国が独自の路線や立場を守ろうとして第三世界を形成していくことを理解する。	期末 考查 ②
三 学 期	1	第8章 冷戦の時代 ③多極化と緊張緩和 ④冷戦の変質 ⑤冷戦の終焉 ⑥冷戦下の日本	14	・冷戦から緊張緩和にむかう流れの中で、ソ連が崩壊したこと、それによる東欧社会主義圏も消滅した過程を学ぶ。 ・冷戦が終わり、世界の国や地域が多面的に関係を結び合い、相互関係を深めていくグローバル化の様子を学ぶ。 ・変貌する現世界の状況を学び、現在の諸問題を考察する。	学年 末
	2				
	3	第9章 グローバル化する世界			
年間時数計			64 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史B	学科 学年	普通科学究コース（文系）2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

『詳説世界史 改訂版』（山川出版社）
『アカデミア世界史』（浜島書店）
『要点整理ゼミナール世界史』（浜島書店）
『世界史用語集改訂版』（山川出版社）
『世界史重要語句 Check List』（啓隆社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特徴を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。各100点）8割、平常点（課題プリントへの取り組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。基礎を踏まえながら、発展的に学習し、古代から中世までを中心に学習します。また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（ 世界史B 2年普通科学究コース文系 2単位 ） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容		学習のねらい	考查
一 学 期	4 5	序 先史の世界 第1部 第1章 オリエントと地中海世界 古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界	9	・人類の誕生、農耕牧畜の始まり、文明の成立の過程を学ぶ。 ・オリエントと地中海世界の風土およびその展開を理解する。	中間 考查①
	6 7 8	第2章 アジア・アメリカの古代文明 インドの古典文明 東南アジアの諸文明 中国の古典文明 南北アメリカ文明	14	・南アジアの形成過程、社会・国家などの発展について学ぶ。 ・東南アジアの社会・文化について中国文化・インド文化の影響と関連づけて理解する。 ・古代中国の社会・文化について周辺地域と関連づけて理解する。	期末 考查①
二 学 期	9 10	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 草原の遊牧民とオアシスの定住民 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展 イスラーム世界の形成 イスラーム世界の発展	13	・東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程、及び両世界の密接な関係について理解する。 ・イスラーム世界の成立の背景と特質について理解する。	中間 考查②
	11 12	インド・東南アジア・アフリカの イスラーム化 イスラーム文明の発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立	14	・イスラーム世界の拡大について理解する。 ・ゲルマン人の活動やイスラム勢力の進出によって地中海世界が解体したことを理解する。	期末 考查②
三 学 期	1 2 3	西ヨーロッパ中世世界の変容 西ヨーロッパの中世文化 第6章 内陸アジア・東アジア世界の展開 トルコ化とイスラーム化の進展 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国	14	・キリスト教を基盤とした新しいヨーロッパ世界が形成され、変動していった過程を理解する。 ・ユーラシア大陸の北部・中央部の砂漠、草原地帯のトルコ人 モンゴル人の生活を概観し、国の形成過程を理解する。	学 年 末 考 査
年間時数計			64 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 A	学科 学年	普通科学究コース（文系）2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

- (1) 日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付け、現代の諸問題と近現代の歴史的事象との結びつきに気付く。
- (2) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。

2. 教科書・副教材等

教科書「現代の日本史 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 二訂版」第一学習社

3. 学習する上での留意点

- (1) 日本の近現代史を、世界史や現代社会と関連付けて学ぶこと。
- (2) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (3) 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いてメモを取り自分なりのノート作りを行う。
- (4) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックする。

4. 評価について

評価は次の4観点から行う。

- (1) 関心・意欲・態度
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
- (2) 思考・判断・表現
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。
- (3) 資料活用の技能
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。
- (4) 知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ5回の定期考査90%、授業の取り組み・提出課題・小テスト10%で評価する。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。特に日本の近現代史を学ぶことによって、現在起こっている問題の原因が見えるはずです。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（2年普通科学究コース文系 日本史A） 学番2 県立新潟中央高等学校

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考查
一学期	4	巻末資料 開国までの歴史・概観と年表	4	近代国家ができるまでの日本の歴史（古代から開国以前まで）の流れをおおまかに確認する。	中間 考查
	5	第1章 開国と維新	7	ペリー来航に始まる幕末期の大変動を幕藩体制の崩壊期としてとらえ、また、その後の明治維新、近代日本の建設について学ぶ。	
		6	第2章 近代国家の形成と発展	11	欧米を目標として近代化を推進してきた明治日本が、条約改正、日清日露の両戦争を通じて如何に変貌を遂げたかを学ぶ。
	7				
	9	第3章 産業化の推進と 国民生活の変化	8	産業革命と資本主義の確立によって国民の生活がどのように変化したのかを学ぶ。	中間 考查
10	第4章 第一次世界大戦と 大正デモクラシー	10	20世紀に入り、欧米列強と肩を並べるまでに発展した日本が、帝国主義国家としてどう世界と関わってきたかを学ぶ。		
二学期	11	第5章 第二次世界大戦と日本	7	昭和初期における経済の混乱と国際関係の中で、日本が戦争へとつき進んでいく過程と、アジアや太平洋地域をまきこんだ戦争が引き起こした結果について学ぶ。	期末 考查
	12	第6章 占領下の日本	5	占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目してわが国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について学ぶ。	
三学期	1	第7章 日本の自立と経済成長	6	戦後の経済復興、高度経済成長、経済の国際化、生活意識や価値観の変化に着目して、日本経済の発展と	学年 末考 査
	2	第8章 現代の世界と日本	6	国民生活の変化について学ぶ。	
	3				
合計			64時間(55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 B	学科学年	普通科学究コース（文系）2年
		履修単位	4単位

1. 学習の到達目標

- (1) 我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- (2) 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- (3) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。
- (4) 基礎的事項を踏まえ、史料を見る力を養い、歴史の展開について考察し自分の考えを表現することができるようになることを目指す。

2. 教科書・副教材等

教科書「詳説日本史 改訂版」山川出版社

図説「最新日本史図表 二訂版」第一学習社

問題集「ポテンシャル日本史」山平商会 出版事業部

用語集「ポテンシャル日本史付録用語Best Select20」山平商会 出版事業部

3. 学習する上での留意点

- (1) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (2) 授業は主に学習プリントをベースに行う。板書事項を機械的に書き写すだけではなく、解説をよく聞いて必要事項はプリントに書き込むなど、自分なりのノート（プリント）を作成する。
- (3) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題プリントなどで自分の理解度をチェックする。
- (4) 定期考査とともに、授業内の小テストに向けての学習や模試の対策・復習にも力をいれる。

4. 評価について

評価は次の4観点から行う。

- (1) 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
- (2) 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できる。
- (3) 資料活用の技能
我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。
- (4) 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、定期考査をベースに、授業の取り組み・提出課題・小テストなどを加味して評価する。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（2年普通科学究コース文系 日本史B） 学番2 県立新潟中央高等学校

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考查	
一 学 期	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	12	遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目して、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させる。また文化財保護の重要性に気付かせる。	中間 考查	
	5	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形成	24	わが国において、国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化・天平文化に着目して古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。		期末 考查
	6					
	7	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	12	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察させる。	中間 考查	
二 学 期	9	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化	22	武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、隆盛国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立背景に考察する。		
	10	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	18	日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジアとの関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。		期末 考查
	11					
12	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造	24	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。	学年 末 考 査		
三 学 期	1	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展	14		幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。	
	2					
3	3. 元禄文化	2				
合計	128時間(55分授業)					

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地理 B	学科 学年	普通科学究コース (文系) 2年
		履修 単位	4 単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料 2019』（東京法令出版社）
- ・副教材『2019データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評 価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。

①関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からのひとこと

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查	
学	4	第Ⅰ部 様々な地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 世界の地形	15	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の地図の活用や地理情報の地図化などの学習活動とおして、現代世界の地理的事象をとらえるための技能を身につける。 大地形の特徴とプレートテクトニクス理論を基盤に、地形の成り立ちを理解する。 成因別による地形(平野・海岸地形・氷河地形・カルスト地形など)特徴とプロセスを理解する。 	中間考查	
	5	2節 世界の気候	16	<ul style="list-style-type: none"> 気候要素と気候因子の因果関係をおさえる。 世界の気候には地域性と共通性があることをケッペンの気候区分を通して理解する。 		
	6	3節 日本の自然の特徴と人々の生活 4節 環境問題	16	<ul style="list-style-type: none"> 気候、植生、土壌の関係を理解する。 日本の自然の特徴を理解し、生活との関わりを考察する。 様々な環境問題があり、その原因と対策を理解する。 		期末考查
	7	2章 資源と産業 1節 世界の農林水産業	9	<ul style="list-style-type: none"> 地域によって異なる農牧業が存在することを理解し、自然環境と社会環境とどのような関わりがあるかを考察する。 		
	8		<ul style="list-style-type: none"> ホイットルセイの農牧業区分を理解する。 			
	学	9	2節 食料問題	14	<ul style="list-style-type: none"> 世界の食料需給にはなぜ偏りがあるのか、食料供給の現状と課題をとらえる。 	中間考查
		10	3節 世界のエネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 世界の工業	14	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーや鉱産資源の分布の特色、生産と消費の偏在について理解を深める。 資源は経済活動に欠かせないものであり、とくに石油はしばしば紛争の火種となってきた石油をめぐる情勢をとらえ、課題を考察する 	
11		6節 第3次産業 7節 世界を結ぶ交通・通信 8節 現代世界の貿易と経済圏	14	<ul style="list-style-type: none"> 消費の偏在について理解を深める。 工業を分類するとともに近代工業の特徴を発達や立地の視点から捉える。 世界では先進国を中心に第3次産業が経済の中心となっている。第3次産業の現状と進展の様子をとらえる。 航空交通をはじめ、様々な交通機関の発達と課題を考察する。 身の回りの製品や原料の生産国を調べ、現代の貿易の特徴をとらえると同時に課題を考察する。 	期末考查	
12		3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題	9	<ul style="list-style-type: none"> 世界人口には地域的な偏りがあるが、総じて産業革命以降急速に増加してきた。このような人口の動向をとらえる。 発展途上国での人口爆発をはじめ、世界の様々な人口問題を理解する。 		
学		1	3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住	9	<ul style="list-style-type: none"> 集落がどのようなところに立地し発展してきたかをとらえる。 都市の機能や地域構造およびさまざまな都市問題について理解する。 	期末考查
	2	2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家	9	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活の地域差を衣食住の特徴から考察する。 さまざまな宗教と生活の関わりについて理解する。 国家とはどのようなものか、領域や国境、国家の形態に着目しながらとらえる。 		
	3	4節 民族と領土問題	3	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地で起こっている紛争の原因を言語、宗教、領土に着目して考察する。 		
	時数計			128時間 (55分授業)		

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	政治・経済	学科 学年	普通科学究コース（文系） 2年
		履修 単位	3単位

1. 学習の到達目標

- ① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
- ② 大学受験に必要とされる基礎的な学力を身につける。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高校 政治・経済 新訂版』（実教出版）
 副教材 『政治経済 資料 2019』（とうほう）
 『NEW COM.-PASSノート 政治経済』（とうほう）

3. 学習する上での留意点

- ① 授業前に教科書を読んで内容を把握しておく。
- ② 授業では、教師の説明をよく聞き理解に努める。
板書を写すだけでなく必要事項はメモし、資料集なども活用してノート作りを工夫する。
- ③ 地歴・公民科の各科目をはじめ、さまざまな分野が関連してくるので不明な点は自分で積極的に調べる。また、わからないことは遠慮なく質問する。
- ④ 副教材を活用し、基本事項の定着に努める。

4. 評価について

- ・定期考査9割、平常点（課題の提出状況、小テストなど）1割という割合で評価を行う。
その際、次の4つの観点を踏まえることとする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとしている。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からひとこと

- ① 新聞・テレビ・書籍などを通じて今日的な話題に興味関心を持ち、問題意識を高めましょう。
- ② 日頃から問題演習を自発的に行い、知識の定着に努めましょう。
- ③ 生徒の理解状況により内容・進度は変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則 1 政治と法 2 民主政治と人権保障の発展 3 国民主権と民主主義の発展 4 世界の政治体制	7	・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やその発展について理解する。 ・世界の主な政治体制について理解する。	中間 考查
	5	第2章 日本国憲法の基本的性格 1 日本国憲法の成立 2 平和主義 3 基本的人権の保障 4 人権のひろがり	12	・日本国憲法の成立過程や特徴について理解する。 ・平和主義について理解するとともに、日本の安全保障政策について理解する。 ・憲法に規定する基本的人権のみならず新しい人権について理解する。	
	6	第3章 日本の政治機構 1 立法 2 行政 3 司法 4 地方自治	12	・国会、内閣、裁判所や地方自治などの日本の統治機構のしくみと役割について理解する。	
	7	第4章 現代日本の政治 1 戦後政治のあゆみ 2 選挙制度と政党 3 政治参加と世論	6	・日本の政党政治や選挙制度の特質、マス・メディアの役割と問題点、世論の果たす役割などを理解しながら、政治への関心を高める。	
	8 9	第5章 現代の国際政治 1 国際政治の特質と国際法 2 国際連盟と国際協力 3 現代国際政治の動向 4 核兵器と軍縮 5 国際紛争と難民 6 国際政治と日本	12	・国際社会や国際法に関する基本的な理解を深める。 ・国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割や抱えている課題について理解する。 ・戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争や軍縮問題、難民問題などを理解する。	中間 考查
二 学 期	10	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容 3 グローバル化と現代資本主義経済 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長	10	・資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較しながら、現代経済の特質について理解する。	期末 考查
	11	4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 戦後復興と経済成長 2 経済の停滞と再生 3 日本の中小企業と農業	12	・市場のはたらきや現代の企業の特質について理解する。 ・国民所得の求め方や経済成長について理解する。 ・戦後日本経済がどのように発展してきたかについて理解する。また、バブル経済やその崩壊、21世紀の日本経済の動向について理解する。	
	12	4 国民の暮らし 5 環境保全と公害防止 6 労使関係と労働条件の改善 7 社会保障の役割	8	・労働問題、社会保障や環境保全と資源・エネルギー問題といった日本経済が直面する課題について理解する。	学年 末 考 査
	1	第4章 世界経済と日本 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化	8	・貿易の意義や国際収支、為替相場の仕組みといった国際経済の基本的な事項を理解する。 ・戦後の国際経済の流れを踏まえ、地域統合や経済摩擦、南北問題など国際経済を取り巻く課題を理解する。	
2	3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 経済協力と人間開発の課題	6			
三 学 期	3	第3編 現代社会の諸課題 ① 地域社会の変貌と住民生活 ② 中小企業の新しい変化 ③ 農業、農村と食料、環境問題 ④ 雇用と労働をめぐる問題 ⑤ これからの社会保障のあり方 ⑥ 地球環境の保全と経済成長 ⑦ 原子力と再生可能エネルギー ⑧ 人種・民族問題 ⑨ 国際経済格差の是正と国際協力 ⑩ 国際社会における日本の立場と役割	3	①～⑤および⑥～⑩の課題のなかから、それぞれいくつか選択して学習する。	
年間時数計			96 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地理 B	学科 学年	普通科学究コース (理系) 2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料 2019』（東京法令出版社）
- ・副教材『2019データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点(課題プリントへの取り組み、提出状況、小テスト)を2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。
 - ①関心・意欲・態度
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。
 - ②思考・判断・表現
現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
 - ③資料活用の技能
地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
 - ④知識・理解
現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第Ⅰ部 様々な地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査	6	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の地図の活用や地理情報の地図化などの学習活動をとおして、現代世界の地理的事象をとらえるための技能を身につける。 大地形の特徴とプレートテクトニクス理論を基盤に、地形の成り立ちを理解する。 河川をつくる平野地形のような小地形と生活の関係を考察する。 気候要素と気候因子の因果関係をおさえる。 世界の気候には地域性と共通性があることをケッペンの気候区分を通して理解する。 日本の自然の特徴を理解し、生活との関わりを考察する。 様々な環境問題があり、その原因と対策を理解する。 	中間考查
		第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 世界の地形			
	5	1節 世界の地形	6		期末考查
	6	2節 世界の気候	7		
	7	3節 日本の自然の特徴と人々の生活 4節 環境問題	6		
8					
二 学 期	9	2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化 2節 世界の農林水産業 3節 食料問題	6	<ul style="list-style-type: none"> 農業が自然の制約を大きく受けること、および工業は、近年国際分業が進展するとともに産業のグローバル化が進んでいることを理解する。 自然環境の制約を受ける農業が、どのように発達し、変化してきたかその過程をとらえる 農業地域はなぜそのような場所に発達し、どのような特徴があるのかとらえる。 エネルギーや鉱産資源の分布の特色、生産と消費の偏在について理解を深める。 資源は経済活動に欠かせないものであり、とくに石油はしばしば紛争の火種となってきた石油をめぐる情勢をとらえ、課題を考察する 工業を分類するとともに近代工業の特徴を発達や立地の視点から捉える。 世界では先進国を中心に第3次産業が経済の中心となっている。第3次産業の現状と進展の様子をとらえる。 航空交通をはじめ、様々な交通機関の発達と課題を考察する。 身の回りの製品や原料の生産国を調べ、現代の貿易の特徴をとらえるとともに課題を考察する。 世界人口には地域的な偏りがあるが、総じて産業革命以降急速に増加してきた。このような人口の動向をとらえる。 発展途上国での人口爆発をはじめ、世界の様々な人口問題を理解する。 	中間考查
		10			
	11		7		期末考查
	12	7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信	6		
三 学 期	1	9節 現代世界の貿易と経済圏	6	期末考查	
	2	3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題	6		
	3		2		
時数計			64時間 (55分授業)		

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	現代社会	学科 学年	普通科学究コース（理系）2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。また、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）
副教材 『フォーラム現代社会 2019』（とうほう）
『NEW COM. -PASS ノート現代社会』（とうほう）

3. 学習する上での留意点

- ①授業前に教科書を読んで内容を把握しておく。
- ②授業では、先生の説明をよく聞き時間内での理解に努める。
板書を写すだけでなく必要事項はメモし、資料集なども活用してノート作りを工夫する。
- ③地歴・公民科の各科目をはじめ、さまざまな分野が関連してくるので不明な点は自分で積極的に調べる。また、質問があれば積極的に質問する。
- ④副教材を活用し、基本事項の定着に努める。

4. 評価について

- ・定期考査9割、平常点（課題の提出状況、小テストなど）1割という割合で評価を行う。
その際、次の4つの観点を踏まえることとする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者から一言

- ①新聞・テレビ・書籍などを通じて、常に今日的な話題に興味関心を持ち、問題意識を高めましょう。
- ②日頃から問題演習を自発的に行い、知識の定着に努めましょう。
- ③生徒の理解状況により、内容・進度は変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查		
一学期	4	第1編 現代社会の諸課題 第1章 地球環境を考える 1 地球環境問題 2 地球環境問題への取り組み 3 資源・エネルギー・人口問題 第2章 科学技術の発達と生命 1 現代の医学が問う生死のあり方 2 生命科学の発達と倫理 3 高度情報社会の現状と問題点	4	・地球温暖化をはじめとする地球環境問題や資源、エネルギー、人口問題について理解する。 ・生命科学や情報技術の発達にともなう生活の変化や、それにとともなう倫理的問題について理解する。	中間 考查		
		5		第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己形成 1 生涯における青年期の意義 2 青年期と自己形成の課題 3 職業生活と社会参加 4 現代社会と青年の生き方 第2章 他者と共に生きる倫理 1 ギリシアの思想 2 宗教の教え 3 人間の尊厳 4 人間と自由		6	・青年期の意義や青年期の心理について理解する。 ・職業や社会参加の意義について理解する。 ・哲学や宗教の役割について理解する。 ・さまざまな宗教や哲学について理解する。
				6			5 個人と社会 6 人間性の回復 7 人間への新たな問い 8 日本の伝統文化と外来思想の受容 第3章 現代の国家と民主政治 1 人権保障の発展と現代社会 2 国民権と民主政治の発展
	二学期	7	第4章 日本国憲法と国民生活 1 日本国憲法の成立 2 平和主義と日本の安全 3 基本的人権の保障 4 人権の広がり		6	・日本国憲法の成立過程と三大原理について理解する。 ・平和主義と日本の安全保障について理解する。 ・日本国憲法に規定する基本的人権とともに、新しい人権について理解する。 ・国の統治機構としての国会、内閣、裁判所について理解する。	中間 考查
		8	5 政治機構と国民生活				
		9	6 人権保障と裁判所 7 地方自治 8 選挙と政党 9 政治参加と世論	7		・地方自治の理念としくみについて理解する。 ・選挙制度と政治のあり方について理解する。 ・政治参加の重要性について理解する。	
10	第5章 国際政治の動向 1 国際社会における政治と法 2 国家安全保障と国際連合 3 冷戦期の脅威と冷戦後の脅威 4 軍備競争と軍備縮小 5 異なる人種・民族との共存 6 国際社会と日本	6	・主権国家体制の確立と国際法について理解する。 ・安全保障の考え方の転換と国際連合の設立、そのしくみについて理解する。 ・戦後国際政治の動向と軍縮について理解する。 ・民族・地域紛争の要因とその克服について考える。	期末 考查			
	11		第6章 現代の経済社会と政府の役割 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動		7	・市場経済の機能と現代の企業の特徴について理解する。 ・景気変動の諸要因とその局面について理解する。	
三学期	12	5 金融機関の働き 6 政府の役割と財政・租税 第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題 2 中小企業と農業	6	・金融と財政のしくみと課題について理解する。 ・日本経済のあゆみと近年の動向について理解する。 ・中小企業、農業がかかえる問題について理解する。	学年 末 考 査		
		1		3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障		7	・日本の公害問題と対応について理解する。 ・消費者問題と被害に対する防止について考える。 ・雇用環境の変化と今日の労働問題について理解する。 ・社会保障のしくみと現状について理解する。
	2		第8章 国際経済の動向 1 国際経済のしくみ 2 国際経済体制の変化 3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国 5 ODAと経済協力	6			・戦後の国際経済体制の変化と近年の動向について理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国が抱える問題について理解する。
			3				第3編 共に生きる社会をめざして 持続可能な社会のために 排除しない社会へ 感染症の治療と予防
	年間	時数	64 時間(55分授業)				

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史B	学科 学年	普通科学究コース（文系）3年
		履修 単位	3単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

- 『詳説世界史 改訂版』（山川出版社）
『アカデミア世界史』（浜島書店）
『要点整理ゼミナール世界史』（浜島書店）
『世界史重要語句 Check List』（啓隆社）
『世界史用語集』（山川出版社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書4ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

- ①関心・意欲・態度
世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。
- ②思考・判断・表現
世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特徴を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
- ③資料活用の技能
世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
- ④知識・理解
世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。各100点）8割、平常点（課題プリントへの取り組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。近代からの歴史的流れを、地理的状況・国際関係・思想などを踏まえながら、多角的視点にたち、歴史を考えられように学習します。また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（ 世界史B 3年普通科学究コース文系 3単位 ） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容		学習のねらい	考査
一 学 期	4 5	第6章 内陸アジア・東アジア世界の展開 トルコ化とイスラーム化の進展 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国	14	<ul style="list-style-type: none"> ユーラシア大陸の北部・中央部の砂漠、草原地帯のトルコ人、モンゴル人の生活を概観し、国の形成過程を理解する。 	中間考査①
		第7章 アジア諸地域の繁栄 東アジア・東南アジア世界の動向 清代の中国と隣接諸地域		<ul style="list-style-type: none"> 明の建国、統一と滅亡、清の建国と統一について理解する。 	
	6 7 8	トルコ・イラン世界の展開 ムガル帝国の興隆と衰退 第9章 近代ヨーロッパの成立 ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス・宗教改革 主権国家体制の形成 第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出	22	<ul style="list-style-type: none"> サファビー朝、ムガル帝国、オスマン帝国のイスラーム王朝の社会・文化について理解する 近代ヨーロッパ成立について、ヨーロッパ世界の拡大、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の観点で、16世紀の世界の一体化の動きを学ぶ。 ヨーロッパ主権国家の展開を、商業主義と啓蒙専制主義ヨーロッパの海外進出、17～18世紀のヨーロッパ文化の観点からヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を学ぶ。 	期末考査①
二 学 期	9 10	第11章 欧米における近代社会の成長 産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン	20	<ul style="list-style-type: none"> 近代社会の成長を産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン時代の観点から経済的・政治的変革の中での産業資本主義と市民社会成立を学ぶ。 	中間考査②
		第12章 欧米における近代国民国家の発展 ウィーン体制			
	11 12	ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展 第13章 アジア諸地域の動揺 オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ 南アジア・東南アジアの激動 東アジアの激動	18	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などにみられた社会の急激な変化について、理解を深める。 	期末考査②
三 学 期	1 2 3	第14章 帝国主義とアジアの民族運動 第15章 二つの世界大戦 第16章 冷戦と第3世界の自立	22	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの動向が大きく世界の動きを決定付けた19世紀半ば以降の各国の政策とその影響、20世紀前半の2つの大戦をへて生じた新たな国際関係を学び、現在に通じる各国の情勢を多角的に学ぶ。 	
年間時数計			96 時間 (55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 B	学科 学年	普通科学究コース (文系) 3年
		履修単位	3単位

1. 学習の到達目標

- (1) 我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- (2) 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- (3) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。
- (4) 基礎的事項を踏まえ、史料を見る力を養い、歴史の展開について考察し自分の考えを表現することができるようになることを目指す。

2. 教科書・副教材等

教科書「詳説日本史 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 初訂版」第一学習社
 問題集「ポテンシャル日本史 基礎力養成編」山平商会出版事業部
 用語集「ポテンシャル日本史付録用語Best Select20」山平商会出版事業部

3. 学習上の留意点

- (1) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (2) 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いてメモを取り自分なりのノート作りを行う。
- (3) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックする。
- (4) 定期考査とともに、朝テストに向けての学習や模試の対策・復習にも力をいれる。

4. 評価

評価は次の4観点から行います。

- (1) 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開の対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究しようとしている。
- (2) 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
- (3) 資料活用の技能
我が国の歴史や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用するとともに、情報を読み取ったり図表等にまとめたりしている。
- (4) 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、4回の定期考査の平均に朝テスト・課題提出の状況を加えて評価します。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（3年普通科学究コース文系 日本史B） 学番2 県立新潟中央高等学校

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	16	幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。	中間 考查
	5	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵	28	開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降のわが国の近代化の推進過程について考察する。 条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、わが国の立憲国家としての展開を考察する。	期末 考查
	6	3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係			
	7				
二 学 期	9	5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	8	国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発展や教育制度の拡充に着目して、近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその成立の背景について考察する。	中間 考查
	10	第10章 近代日本とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代	26	政治や社会運動の動向、都市の発達と農山漁村の変化及び文化の大衆化に着目し、政党政治の発展、大衆社会の特色とその成立の背景について考察する。 国際社会の中の日本の立場に着目して第一次世界大戦前後の対外政策の推移や対戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察する。	期末 考查
	11	5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦			
	12	第11章 占領下の日本	18	占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、わが国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について学ぶ。	
三 学 期	1	第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本		戦後の復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察する。	
	2				
	3				
合計			96時間(55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地理 B	学科 学年	普通科学究コース (文系) 3年
		履修 単位	3単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料 2018』（東京法令出版社）
- ・副教材『2018データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。
 - ①関心・意欲・態度
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。
 - ②思考・判断・表現
現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
 - ③資料活用の技能
地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
 - ④知識・理解
現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からのひとこと

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查		
一 学 期	4	第Ⅱ部 4章 現代世界の系統地理的考察 4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家	10	<ul style="list-style-type: none"> 世界における衣食住の特徴と多様性、地域的差異について理解する。 民族の定義や特色、民族と国家の関係について理解する。 国家の形態・構成・規模は多様であること、また国際連合の役割や存在理由を理解する。 民族問題、領土問題の事例を挙げ、解決の難しさを理解する。 	中間考查		
	5	4節 民族・領土問題 第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	12				
	6	1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 1節 地域の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア	12		<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查	
	7	4節 南アジア 5節 西アジアと中央アジア	7				
	8						
	二 学 期	9	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節 ヨーロッパ		11	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	中間考查
		10	8節 ロシア		11		
11		9節 アングロアメリカ	11	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查		
12		10節 ラテンアメリカ	6				
三 学 期	1	11節 オセアニア	6	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 戦後の日本の歴史を理解し、現代世界の地理的問題を把握する。また、解決策について考察する。 	期末考查		
	2	3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題	7				
	3	2節 日本の抱える課題の追究	3				
時数計			96時間 (55分授業)				

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	倫理	学科 学年	普通科学究コース (文系)3年
		履修 単位	3単位

1. 学習の到達目標

- (1) 先哲（過去を生きた哲人・思想家）の思想や生き方を学ぶことを通して、一人ひとりが自らのよりよい生き方を主体的に考える力を身につける。
- (2) 広い視野にたつて現代の社会についての理解を深めるとともに、社会について主体的に考察することを通して社会への積極的なかわり方、人間としてのあり方・生き方への自覚をもつ。
- (3) 民主的・平和的な国際社会の形成者として必要な人間としての資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- 教科書 『高等学校 新倫理 新訂版』清水書院
 資料集 『アプローチ倫理資料PLUS2019』東京法令出版社
 用語集 『用語集 倫理』清水書院

3. 学習上の留意点

- (1) 自分から、教科書を深く読んで理解する姿勢が大切。
- (2) 授業では、内容の理解とともに、自らの身近な視点に照らし合わせて考えることを習慣にする。板書を写すだけでなく、必要事項をメモし資料集等を活用して、より深く理解するための工夫を各自が行う。
- (3) 地歴・公民の各科目をはじめ、これまでに履修した教科のさまざまな分野が関連してくるので、不明な点は積極的に調べる。
- (4) 問題集を活用して、思想の要点を把握し、理解度を確認する。思想家の残した言葉やキーワードを中心に資料集を活用して原典にあたり、時代背景、関連する人物などについて系統的に理解するよう心がける。
- (5) 新聞・書籍などを通じて、倫理的話題に興味関心を持ち、問題意識を高める。

4. 評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。

5. 担当者から一言

現代社会においては、主体的に考え、みずからの方向を定めていく力を養うことがより強く求められています。先人たちの思想を学んで、よりよい自己のあり方・生き方について思索を深めていきましょう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一学期	4	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成	4	豊かな自己形成に向けて、青年期の意義と課題を理解する。	中間 考查
		第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学	6	人生におけるギリシャ哲学、キリスト教、イスラム教のもつ意義について理解させ人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方についての理解を深める。	
	5	第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教—愛の宗教 第2節 イスラーム—啓示と戒律の宗教	6		
	5	第3節 仏教—智慧と慈悲の宗教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	4	人生における儒教、仏教、芸術のもつ意義について理解させ人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深める。	期末 考查
	6	第3章 人生の知恵	5		
		第4章 人生における芸術	1		
	7	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳	10	現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促す。	
二学期	8	第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり	8	よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深める。	中間 考查
		9	第6節 現代における理性の問題	6	
	10	第3編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と人々の考え方 第2節 仏教の伝来と隆盛 第3節 儒教の日本化	9	日本の人間観、自然観、宗教観などの特質について、日本の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら自己との関わりにおいて理解する。	
	10	第4節 近世町人文化と民衆の思想 第5節 国学と伝統文化 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	6	日本の伝統思想と国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深める。	期末 考查
	11	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と環境 第2章 家族・地域社会と情報社会 第3章 異文化理解と人類の福祉	10	倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力を身に付ける。	
三学期	12	テーマ別学習 ①生命倫理 ②環境倫理 ③家族・地域社会 ④情報社会 ⑤文化と宗教 ⑥国際平和と人類の福祉	21	資料集を参考にして、テーマ別に左記の①～⑥の課題について考察し、問題解決の方法を把握し総括する力をつける。	

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地 理 B	学科 学年	普通科学究コース (理系) 3年
		履修 単位	4単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料2018』（東京法令出版社）
- ・副教材『2018 データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『18サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評 価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。

①関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からのひとこと

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考査	
一 学 期	4	第Ⅱ部 現代世界の系統地理 的考察 3章 人口、村落・都市 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	15	<ul style="list-style-type: none"> ・集落がどのようなところに立地し発展してきたかをとらえる。 ・都市の機能や地域構造およびさまざまな都市問題について理解する。 ・世界における衣食住の特徴と多様性、地域的差異について理解する。 ・民族の定義や特色、民族と国家の関係について理解する。 ・国家の形態・構成・規模は多様であること、また国際連合の役割や存在理由を理解する。 ・民族問題、領土問題の事例を挙げ、解決の難しさを理解する。 		
		4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題	16			中間考査
	5	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域	16		<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	
		1節 地域の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア				
	6	4節 南アジア 5節 西アジアと中央アジア	9			
	7					
	8					
二 学 期	9	6節 北アフリカとサハラ以南 のアフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア	14	<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 		
		9節 アングロアメリカ	14			
	10	10節 ラテンアメリカ	14			
	11	11節 オセアニア	9			期末考査
	12					
三 学 期	1	3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題 2節 日本の抱える課題の追究	9	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本の歴史を理解し、現代世界の地理的問題を把握する。また、解決策について考察する。 		
	2		9			期末考査
	3		3			
時数計			128時間 (55分授業)			

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史A	学科 学年	食物科 1年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

『現代の世界史 改訂版』（山川出版社）

『グローバルワイド最新世界史図表 二訂版』（第一学習社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題プリントなどで自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組もうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。

各100点）8割、平常点（課題プリントの取組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。基礎を踏まえながら、発展的に学習し、近現代史を中心に行います。

また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（世界史A 1年食物科 2単位） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容	学習のねらい	考查				
一 学 期	4	第I部 一体化する世界 諸地域世界の特質 東アジア世界 南アジア世界・東南アジア世界 西アジア世界	9	(世界の諸地域の民族・宗教、地域の交流について概観) ・世界各地でそれぞれの自然や環境に適した多様で独自の世界が形成されたことを学ぶ。 ・それぞれの世界の特質と政治構造および特徴的な文化を概観する。 ・陸と海の交流については、陸と海のネットワーク、諸地域世界の交流の観点から、その全体像を学ぶ。特に諸地域の交流が深まるなか、世界が一体化していく様子を理解する。	中間 考 査 ①			
						5	ヨーロッパ世界 陸と海の交流	
	6	第II部 現代世界と日本 導入 現代社会へ向かう世界 第6章 帝国主義とアジアの民族運動				14	・欧米列強が第2次産業革命の進展により植民地拡大に迫られ、帝国主義が成立したことを理解する。 ・一方、列強の国内では資本家と労働者の緊張関係が高まり、労働運動が活発化したこと、それに対して非欧米地域では近代化による自立の動きがおこったことを理解する。	期 末 考 査 ①
	7							
	8							
	二 学 期	9				第7章 二つの世界大戦 ①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③民族主義の新展開	13	・第一次世界大戦について、その性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について理解する。 ・国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、について理解し、国際社会の枠組みの変化を学ぶ。 ・第一次世界大戦がアジアに及ぼした影響について学ぶ。
10			第7章 二つの世界大戦 ④世界恐慌とファシズム ⑤第二次世界大戦					
		11 12		第8章 冷戦の時代 ①冷戦の形成と第三世界の登場 ②核戦争の危機				
14			・アメリカから始まった世界恐慌によってファシズムが台頭してきたことを学ぶ。 ・ファシズム国家と反ファシズム国家が対立し、再度の世界大戦に突入した過程を理解する。 ・冷戦という東西陣営の対立の背景、実態や政治・経済の世界的影響を学ぶ。 ・アジア・アフリカ諸国が独自の路線や立場を守ろうとして第三世界を形成していくことを理解する。		期 末 考 査 ②			
三 学 期	1	第8章 冷戦の時代 ③多極化と緊張緩和 ④冷戦の変質 ⑤冷戦の終焉 ⑥冷戦下の日本	14	・冷戦から緊張緩和にむかう流れの中で、ソ連が崩壊したこと、それによる東欧社会主義圏も消滅した過程を学ぶ。 ・冷戦が終わり、世界の国や地域が多面的に関係を結び合い、相互関係を深めていくグローバル化の様子を学ぶ。 ・変貌する現世界の状況を学び、現在の諸問題を考察する。	学 年 末			
	2							
	3					第9章 グローバル化する世界		
年間時数計			64 時間 (55分授業)					

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	現代社会	学科 学年	食物科 2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。また、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）
副教材 『フォーラム現代社会 2019』（とうほう）
『NEW COM. -PASS ノート現代社会』（とうほう）

3. 学習する上での留意点

- ①授業前に教科書を読んで内容を把握しておく。
- ②授業では、先生の説明をよく聞き時間内での理解に努める。
板書を写すだけでなく必要事項はメモし、資料集なども活用してノート作りを工夫する。
- ③地歴・公民科の各科目をはじめ、さまざまな分野が関連してくるので不明な点は自分で積極的に調べる。また、質問があれば積極的に質問する。
- ④副教材を活用し、基本事項の定着に努める。

4. 評価について

- ・定期考査9割、平常点（課題の提出状況、小テストなど）1割という割合で評価を行う。
その際、次の4つの観点を踏まえることとする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者から一言

- ①新聞・テレビ・書籍などを通じて、常に今日的な話題に興味関心を持ち、問題意識を高めましょう。
- ②日頃から問題演習を自発的に行い、知識の定着に努めましょう。
- ③生徒の理解状況により、内容・進度は変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考査	
一学期	4	第1編 現代社会の諸課題 第1章 地球環境を考える 1 地球環境問題 2 地球環境問題への取り組み 3 資源・エネルギー・人口問題 第2章 科学技術の発達と生命 1 現代の医学が問う生死のあり方 2 生命科学の発達と倫理 3 高度情報社会の現状と問題点	4	・地球温暖化をはじめとする地球環境問題や資源、エネルギー人口問題について理解する。 ・生命科学や情報技術の発達にともなう生活の変化や、それにとともなう倫理的問題について理解する。	中間考査	
		第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己形成 1 生涯における青年期の意義 2 青年期と自己形成の課題 3 職業生活と社会参加 4 現代社会と青年の生き方 第2章 他者と共に生きる倫理 1 ギリシアの思想 2 宗教の教え 3 人間の尊厳 4 人間と自由		6		・青年期の意義や青年期の心理について理解する。 ・職業や社会参加の意義について理解する。 ・哲学や宗教の役割について理解する。 ・さまざまな宗教や哲学について理解する。
	6	5 個人と社会 6 人間性の回復 7 人間への新たな問い 8 日本の伝統文化と外来思想の受容 第3章 現代の国家と民主政治 1 人権保障の発展と現代社会 2 国民権と民主政治の発展	7		・社会の発達と人間性の喪失の関係について理解するとともに、人生を豊かに生きる上で大切なことを考える。 ・日本の伝統的な考え方や外来文化をどのように受容してきたか理解する。 ・民主政治の発展のなかで人権保障が実現してきたことを理解する。	中間考査
		7		第4章 日本国憲法と国民生活 1 日本国憲法の成立 2 平和主義と日本の安全 3 基本的人権の保障 4 人権の広がり 5 政治機構と国民生活	6	
	二学期	8	6 人権保障と裁判所 7 地方自治 8 選挙と政党 9 政治参加と世論	7		・地方自治の理念としくみについて理解する。 ・選挙制度と政治のあり方について理解する。 ・政治参加の重要性について理解する。
		10	第5章 国際政治の動向 1 国際社会における政治と法 2 国家安全保障と国際連合 3 冷戦期の脅威と冷戦後の脅威 4 軍備競争と軍備縮小 5 異なる人種・民族との共存 6 国際社会と日本		6	・主権国家体制の確立と国際法について理解する。 ・安全保障の考え方の転換と国際連合の設立、そのしくみについて理解する。 ・戦後国際政治の動向と軍縮について理解する。 ・民族・地域紛争の要因とその克服について考える。
11		第6章 現代の経済社会と政府の役割 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動	7			・市場経済の機能と現代の企業の特徴について理解する。 ・景気変動の諸要因とその局面について理解する。
三学期	12	5 金融機関の働き 6 政府の役割と財政・租税 第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題 2 中小企業と農業		6	・金融と財政のしくみと課題について理解する。 ・日本経済のあゆみと近年の動向について理解する。 ・中小企業、農業がかかえる問題について理解する。	学年末考査
		1	3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障		7	
	2	第8章 国際経済の動向 1 国際経済のしくみ 2 国際経済体制の変化 3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国 5 ODAと経済協力	6	・戦後の国際経済体制の変化と近年の動向について理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国が抱える問題について理解する。		
	3	第3編 共に生きる社会をめざして 持続可能な社会のために 排除しない社会へ 感染症の治療と予防		2	誰もが共生することができ、持続可能な社会のためには何が必要かを考える。	
年間時数計		64 時間(55分授業)				

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地理 A	学科 学年	食物科 3年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『高等学校新地理A』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料2019』（とうほう）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。

①関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からのひとこと

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查	
一 学 期	4	1部 世界の諸地域の姿と地球的課題	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自転・公転、緯度・経度といった基本的な事柄を理解し、時差の仕組みなどと結びつけて理解を深める。 ・様々な図法について考察し、各図法の特徴と利用方法を理解する。 ・地形を形成する内的営力と外的営力について、その原動力と作用を理解する。 ・様々な小地形と人々の生活との関係を理解する。 ・ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。 ・世界の農牧業の種類について理解する。 ・世界の工業の発達と種類について理解する。 		
		1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界				
	5	2章 人間生活を取り巻く環境 1節 人々の生活と地形 2節 人々の生活と気候	7		<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	中間考查
		3節 人々の生活と産業・文化				
	6	3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国の生活・文化	7		<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查
		2節 韓国の生活・文化				
		3節 東南アジアの生活・文化 4節 南アジアの生活・文化				
	7	5節 中央アジア・西アジア 北アフリカの生活・文化	6		<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	
6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化						
8						
二 学 期	9	7節 ヨーロッパの生活・文化	7	<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 		
		8節 ロシアの生活・文化				
	10	9節 アングロアメリカの生活・文化	7	<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	中間考查	
		10節 ラテンアメリカの生活・文化				
	11	11節 オーストラリアの生活・文化	7	<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理で学んだことを復習しながら、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 	期末考查	
		4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題				
2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題						
12	4節 世界の人口問題	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で直面している深刻な課題について、どのような地域の特徴があるかを理解する。 ・世界で起こっている様々な環境問題について理解する。 ・世界の資源やエネルギーはどこで生産されどこで多く消費されているかを理解する。 ・世界人口が20世紀後半から急増している原因は何か考察する。 ・世界の食糧生産・消費には著しい偏りがあることを理解する。 ・都市への人口集中が世界的に進んだ背景とどのような都市問題が発生しているのか理解する。 			
	5節 世界の食料問題					
	6節 世界の都市・居住問題					
三 学 期	1	2部 身近な地域の課題	5	<ul style="list-style-type: none"> ・一般図と主題図の特徴および用途を理解する。 ・GISとGPSの仕組みについて理解する。 ・日本が災害大国であることを理解し、その原因について考察する。 	期末考查	
		1章 身近にある様々な地図				
	2	2章 日本の自然環境と防災	5			
3	3章 身近な地域の課題と地域調査	2	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域を調査するためには、どのような調査方法が有効か考察する。 			
時数計			64時間 (55分授業)			

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	世界史A	学科 学年	音楽科 1年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

1. 日本国民としての自覚の上に、急速にグローバル化が進む世界において必要とされる、普遍的かつ国際的な視野と健全な国家意識を養う。
2. 21世紀になって、ますます流動化し、複雑化する現代の世界を理解するための、基礎的かつ実地的な知識と思考力を身につけさせる。

2. 教科書・副教材等

『現代の世界史 改訂版』（山川出版社）

『グローバルワイド最新世界史図表 二訂版』（第一学習社）

3. 学習する上での留意点

1. 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておくこと。
2. 授業中は、板書を機械的に書き写すだけではいけない。解説をよく聞き、授業内容をできるだけ理解しておくこと。
3. 週に一度は教科書・ノートなどを用いて復習し、問題プリントなどで自分の理解度を確認すること。
4. 歴史の流れや用語などでわからない所があったら、質問すること。

4. 評価規準・評価方法について

評価は次の4つの観点から行います。

①関心・意欲・態度

近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組もうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。

以上の観点をふまえ、

目安として、定期考査（1学期と2学期の中間・期末考査、3学期の学年末考査の計5回。

各100点）8割、平常点（課題プリントの取組み、提出状況、小テストなど）を2割という割合で評価します。

5. 担当者からの一言

単元によっては、教科書に準拠しながら、図表をはじめとする副教材などを多く利用します。基礎を踏まえながら、発展的に学習し、近現代史を中心に行います。

また、授業は生徒の理解状況を踏まえながら行うので、進度を変更する場合があります。

学習計画（ 世界史A 1年音楽科 2単位 ） 学番 2 新潟県立新潟中央高等学校

学期	月	学習内容	学習のねらい	考查		
一 学 期	4	第Ⅰ部 一体化する世界 諸地域世界の特質 東アジア世界 南アジア世界・東南アジア世界 西アジア世界 ヨーロッパ世界 陸と海の交流	9	(世界の諸地域の民族・宗教、地域の交流について概観) ・世界各地でそれぞれの自然や環境に適した多様で独自の世界が形成されたことを学ぶ。 ・それぞれの世界の特質と政治構造および特徴的な文化を概観する。 ・陸と海の交流については、陸と海のネットワーク、諸地域世界の交流の観点から、その全体像を学ぶ。特に諸地域の交流が深まるなか、世界が一体化していく様子を理解する。	中間 考查 ①	
						5
	6	第Ⅱ部 現代世界と日本 導入 現代社会へ向かう世界 第6章 帝国主義とアジアの民族運動	14	・欧米列強が第2次産業革命の進展により植民地拡大に迫られ、帝国主義が成立したことを理解する。 ・一方、列強の国内では資本家と労働者の緊張関係が高まり、労働運動が活発化したこと、それに対して非欧米地域では近代化による自立の動きがおこったことを理解する。	期末 考查 ①	
						7
						8
	二 学 期	9	第7章 二つの世界大戦 ①第一次世界大戦とロシア革命 ②ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③民族主義の新展開	13	・第一次世界大戦について、その性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について理解する。 ・国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、について理解し、国際社会の枠組みの変化を学ぶ。 ・第一次世界大戦がアジアに及ぼした影響について学ぶ。	中間 考查 ②
10						
		11	14	・アメリカから始まった世界恐慌によってファシズムが台頭してきたことを学ぶ。 ・ファシズム国家と反ファシズム国家が対立し、再度の世界大戦に突入した過程を理解する。 ・冷戦という東西陣営の対立の背景、実態や政治・経済の世界的影響を学ぶ。 ・アジア・アフリカ諸国が独自の路線や立場を守ろうとして第三世界を形成していくことを理解する。	期末 考查 ②	
12		第8章 冷戦の時代 ①冷戦の形成と第三世界の登場 ②核戦争の危機				
三 学 期	1	第8章 冷戦の時代 ③多極化と緊張緩和 ④冷戦の変質 ⑤冷戦の終焉 ⑥冷戦下の日本	14	・冷戦から緊張緩和にむかう流れの中で、ソ連が崩壊したこと、それによる東欧社会主義圏も消滅した過程を学ぶ。 ・冷戦が終わり、世界の国や地域が多面的に関係を結び合い、相互関係を深めていくグローバル化の様子を学ぶ。 ・変貌する現世界の状況を学び、現在の諸問題を考察する。	学年 末	
	2					
	3					第9章 グローバル化する世界
年間時数計			64 時間 (55分授業)			

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 B	学科 学年	音楽科 2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

- (1) 我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- (2) 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- (3) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。

2. 教科書・副教材等

教科書「詳説日本史B 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 二訂版」第一学習社
 問題集「ポテンシャル日本史 基礎力養成編」山平商会 出版事業部

3. 学習する上での留意点

- (1) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (2) 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いてメモを取り自分なりのノート作りを行う。
- (3) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックする。
- (4) 大学入試センター試験で必要とされる基礎的な学力を身につけるためには自ら意欲的に学ぶ姿勢が必要である。普段の予習・復習はもちろん、模試の対策・復習にも力を入れること。また補習にも積極的に参加すること。

4. 評価について

評価は次の4観点から行う。

- (1) 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
- (2) 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できる。
- (3) 資料活用の技能
我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。
- (4) 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点をふまえて5回の定期考査をベースに、授業の取り組み・提出課題・小テストの成績を加味して評価する。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（2年音楽科 日本史B） 学番 2 県立新潟中央高等学校

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化のはじまり	7	遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目して、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させる。また文化財保護の重要性に気付かせる。	中間 考查
	5	2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権			
	6	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家の成立 3. 平城京の時代	13	わが国において、国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化・天平文化に着目して古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	期末 考查
	7	4. 天平文化 5. 平安王朝の形成			
二 学 期	9	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	7	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察させる。	中間 考查
	10	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立	13	武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、隆盛国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立背景に考察する。	
	11	3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化			
三 学 期	12	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の文化 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	12	日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジアとの関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	学年 末 考 査
	1	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立	12	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。	
		2			
3	4. 幕藩社会の構造				
合計	64時間(55分授業)				

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地 理 B	学科 学年	音楽科 2年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料 2019』（とうほう）
- ・副教材『2019データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- 1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- 2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- 3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点(課題プリントへの取り組み、提出状況、小テスト)を2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。
 - ①関心・意欲・態度
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。
 - ②思考・判断・表現
現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
 - ③資料活用の技能
地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
 - ④知識・理解
現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查		
一 学 期	4	第Ⅰ部 様々な地図と地理的技能	6	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の地図の活用や地理情報の地図化などの学習活動をとおして、現代世界の地理的事象をとらえるための技能を身につける。 	中間考查		
		第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境と生活 1節 世界の地形					
	5	2節 世界の気候 1 気候の成り立ち		6		<ul style="list-style-type: none"> 大地形の特徴とプレートテクトニクス理論を基盤に、地形の成り立ちを理解する。 河川をつくる平野地形のような小地形と生活の関係を考察する。 気候要素と気候因子の因果関係をおさえる。 	
		2 世界の気候区分					
	6	3 植生と土壌		6		<ul style="list-style-type: none"> 世界の気候には地域性と共通性があることをケッペンの気候区分を通して理解する。 気候、植生、土壌の関係を理解する。 	期末考查
		3節 日本の自然の特徴と人々の生活 4節 環境問題					
7	2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化	6	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然の特徴を理解し、生活との関わりを考察する。 様々な環境問題があり、その原因と対策を理解する。 				
	2節 世界の農林水産業						
二 学 期	9	2節 世界の農林水産業	6	<ul style="list-style-type: none"> 農業が自然の制約を大きく受けること、および工業は、近年国際分業が進展するとともに産業のグローバル化が進んでいることを理解する。 自然環境の制約を受ける農業が、どのように発達し、変化してきたかその過程をとらえる 	中間考查		
		3節 食料問題					
	10	4節 世界のエネルギー・鉱産資源		6		<ul style="list-style-type: none"> 農業地域はなぜそのような場所に発達し、どのような特徴があるのかとらえる。 世界の食料需給にはなぜ偏りがあるのか、食料供給の現状と課題をとらえる。 	
		5節 資源・エネルギー問題					
	11	6節 世界の工業		8		<ul style="list-style-type: none"> エネルギーや鉱産資源の分布の特色、生産と消費の偏在について理解を深める。 資源は経済活動に欠かせないものであり、とくに石油はしばしば紛争の火種となってきた石油をめぐる情勢をとらえ、課題を考察する 工業を分類するとともに近代工業の特徴を発達や立地の視点から捉える。 世界では先進国を中心に第3次産業が経済の中心となっている。第3次産業の現状と進展の様子をとらえる。 	期末考查
		7節 第3次産業					
12	8節 世界を結ぶ交通・通信	6	<ul style="list-style-type: none"> 航空交通をはじめ、様々な交通機関の発達と課題を考察する。 身の回りの製品や原料の生産国を調べ、現代の貿易の特徴をとらえると同時に課題を考察する。 				
	9節 現代世界の貿易と経済圏						
三 学 期	1	3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口	6	<ul style="list-style-type: none"> 世界人口には地域的な偏りがあるが、総じて産業革命以降急速に増加してきた。このような人口の動向をとらえる。 発展途上国での人口爆発をはじめ、世界の様々な人口問題を理解する。 集落はどのような場所に立地し、発達してきたのかをとらえる。 	期末考查		
		2節 人口問題 3節 村落と都市					
	2	4節 都市・居住問題	2	<ul style="list-style-type: none"> 先進国と発展途上国に分け、都市問題を考察する。 都市・居住問題の地域的な差異や類似点を考察する。 			
		3					
時数計			64時間（55分授業）				

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	日本史 B	学科 学年	音楽科 3年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

- (1) 我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- (2) 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- (3) 歴史的思考力を培い、国際社会で主体性に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に、歴史の当事者としての意識を持つ。

2. 教科書・副教材等

教科書「詳説日本史B 改訂版」山川出版社
 図説「最新日本史図表 初訂版」第一学習社
 問題集「ポテンシャル日本史 基礎力養成編」山平商会出版事業部

3. 学習上の留意点

- (1) 予習としては、授業前に教科書2ページ程度を一読しておく。
- (2) 授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、解説をよく聞いてメモを取り自分なりのノート作りを行う。
- (3) 週に1度は教科書、ノートなどを用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックする。
- (4) 大学入試センター試験で必要とされる基礎的な学力を身につけるためには自ら意欲的に学ぶ姿勢が必要である。普段の予習・復習はもちろん、模試の対策・復習にも力を入れること。また補習にも積極的に参加すること。

4. 評価

評価は次の4観点から行います。

- (1) 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開の対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
- (2) 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できる。
- (3) 資料活用の技能
我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。
- (4) 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、4回の定期考査をベースに授業の取り組み・提出課題の成績を加味して評価します。

5. 担当者から一言

「歴史は暗記科目」ととらえられがちですが、「暗記」だけでは歴史のおもしろさ、深さはわかりません。この事件はなぜおこったのか、この事柄と関係があることは何か、などと歴史的な事柄を様々な角度から考察していくことが大切です。また過去を知れば現在が見えてきます。そしておのずと未来が見えてきます。国際社会の中でこれから日本はどのような選択をしていくべきなのか、考える力を養ってほしいと思います。

学習計画表（3年音楽科 日本史B） 学番 2 県立新潟中央高等学校

期	月	学習内容	時間数	学習のねらい	考査
一 学 期	4	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造	7	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。	中間 考査
	5	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	5	幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。	
	6	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革	13		
	7	2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化			
二 学 期	9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係	9	開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降のわが国の近代化の推進過程について考察する。	中間 考査
	10			条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、わが国の立憲国家としての展開を考察する。	
	11	5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	4	国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発展や教育制度の拡充に着目して、近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその成立の背景について考察する。	
	12	第10章 近代日本とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民文化 4. 恐慌の時代	13	政治や社会運動の動向、都市の発達と農山漁村の変化及び文化の大衆化に着目し、政党政治の発展、大衆社会の特色とその成立の背景について考察する。	
			5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦		国際社会の中の日本の立場に着目して第一次世界大戦前後の対外政策の推移や対戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察する。
				国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦のかかわりについて考察する。	
三 学 期	1	第11章 占領下の日本	13	占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、わが国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について学ぶ。	
	2	第12章 高度成長の時代			
	3	第13章 激動する世界と日本			
合計			64時間(55分授業)		

教科	地理歴史	年度	平成31年度
科目名	地 理 B	学科 学年	音楽科 3年
		履修 単位	2 単位

1. 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景をふまえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 教科書・副教材等

- ・教科書『新詳地理B』（帝国書院）
- ・地 図『新詳高等地図』（帝国書院）
- ・副教材『新編 地理資料2018』（とうほう）
- ・副教材『2018 データブックオブザワールド』（二宮書店）
- ・副教材『18サクシード地理』（啓隆社）

3. 学習上の留意点

- (1) 現代世界の地理的事象の背景には、自然的環境と社会的環境があることに注意を払う。
- (2) 常に地図帳で位置や広がりを確認する習慣をつける。
- (3) 地理的事象を地図やグラフなどに表現し、その背景に何があるか説明するよう努める。

4. 評価

- ・評価は定期考査8割、平常点2割のウエイトで行う。
- ・その際、次の4つの観点をふまえることとする。

①関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。

②思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

④知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

- ・地域のことから世界のことまで、グローバルな視野を身につけよう。
- ・新聞、テレビ等も有効な教材となります。日頃より、地理的な感覚を研ぎすまそう。
- ・生徒の理解状況により、内容・進度を変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查		
一 学 期	4	第Ⅱ部 世界の諸地域 4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題	7	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活の地域差を衣食住の特徴から考察する。 さまざまな宗教と生活の関わりについて理解する。 国家とはどのようなものか、領域や国境、国家の形態に着目しながらとらえる。 世界各地で起こっている紛争の原因を言語、宗教、領土に着目して考察する。 			
		5	6			中間考查	
	6	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 1節 地誌の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア	6		<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを基礎に、それぞれの国または地域の特徴を把握する。 日本の近隣諸国については、歴史的な日本とのかかわりにも触れ、社会背景をとらえる。 	期末考查	
		7	6				<ul style="list-style-type: none"> 地域・国の歴史的な背景を踏まえながら自然・社会環境の類似点や相違点を考察する。
		8					
二 学 期	9	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア	6	<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを基礎に、それぞれの国または地域の特徴を把握し、類似性や相違点を考察する ヨーロッパと我々の生活するアジアとの違いに触れながら、自然環境や社会の発達を考察する 	中間考查		
	10		6				
	11		7		期末考查		
	12	9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア	6			<ul style="list-style-type: none"> 系統地理で学んだことを基礎に、それぞれの国または地域の特徴を把握し、類似性や相違点を考察する 日本との関係性を多面的にとらえることで日本の今後のあり方を考察する 	
三 学 期	1		6	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の日本の歴史を理解し、現代世界の地理的問題を把握する。また、解決策について考察する。 	期末考查		
	2	3章 現代世界と日本	6				
	3		2				
時数計			64時間 (55分授業)				

教科	公民	年度	平成31年度
科目名	現代社会	学科 学年	音楽科 3年
		履修 単位	2単位

1. 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。また、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 教科書・副教材等

教科書 『高校 現代社会 新訂版』（実教出版）
副教材 『フォーラム現代社会 2019』（とうほう）
『NEW COM. -PASS ノート現代社会』（とうほう）

3. 学習する上での留意点

- ①授業前に教科書を読んで内容を把握しておく。
- ②授業では、先生の説明をよく聞き時間内での理解に努める。
板書を写すだけでなく必要事項はメモし、資料集なども活用してノート作りを工夫する。
- ③地歴・公民科の各科目をはじめ、さまざまな分野が関連してくるので不明な点は自分で積極的に調べる。また、質問があれば積極的に質問する。
- ④副教材を活用し、基本事項の定着に努める。

4. 評価について

- ・定期考査9割、平常点（課題の提出状況、小テストなど）1割という割合で評価を行う。
その際、次の4つの観点を踏まえることとする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断できる。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

5. 担当者から一言

- ①新聞・テレビ・書籍などを通じて、常に今日的な話題に興味関心を持ち、問題意識を高めましょう。
- ②日頃から問題演習を自発的に行い、知識の定着に努めましょう。
- ③生徒の理解状況により、内容・進度は変更する場合があります。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考査
一学期	4	第1編 現代社会の諸課題 第1章 地球環境を考える 1 地球環境問題 2 地球環境問題への取り組み 3 資源・エネルギー・人口問題 第2章 科学技術の発達と生命 1 現代の医学が問う生死のあり方 2 生命科学の発達と倫理 3 高度情報社会の現状と問題点	4	・地球温暖化をはじめとする地球環境問題や資源、エネルギー人口問題について理解する。 ・生命科学や情報技術の発達にともなう生活の変化や、それにとともなう倫理的問題について理解する。	中間考査
		第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己形成 1 生涯における青年期の意義 2 青年期と自己形成の課題 3 職業生活と社会参加 4 現代社会と青年の生き方 第2章 他者と共に生きる倫理 1 ギリシアの思想 2 宗教の教え 3 人間の尊厳 4 人間と自由		6	
	5 個人と社会 6 人間性の回復 7 人間への新たな問い 8 日本の伝統文化と外来思想の受容 第3章 現代の国家と民主政治 1 人権保障の発展と現代社会 2 国民権と民主政治の発展	7	・社会の発達と人間性の喪失の関係について理解するとともに、人生を豊かに生きる上で大切なことを考える。 ・日本の伝統的な考え方や外来文化をどのように受容してきたか理解する。 ・民主政治の発展のなかで人権保障が実現してきたことを理解する。		
	7		第4章 日本国憲法と国民生活 1 日本国憲法の成立 2 平和主義と日本の安全 3 基本的人権の保障 4 人権の広がり 5 政治機構と国民生活		6
	8	6 人権保障と裁判所 7 地方自治 8 選挙と政党 9 政治参加と世論	7	・地方自治の理念としくみについて理解する。 ・選挙制度と政治のあり方について理解する。 ・政治参加の重要性について理解する。	
	9	第5章 国際政治の動向 1 国際社会における政治と法 2 国家安全保障と国際連合 3 冷戦期の脅威と冷戦後の脅威 4 軍備競争と軍備縮小 5 異なる人種・民族との共存 6 国際社会と日本		7	・主権国家体制の確立と国際法について理解する。 ・安全保障の考え方の転換と国際連合の設立、そのしくみについて理解する。 ・戦後国際政治の動向と軍縮について理解する。 ・民族・地域紛争の要因とその克服について考える。
10	第6章 現代の経済社会と政府の役割 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動	7	・市場経済の機能と現代の企業の特徴について理解する。 ・景気変動の諸要因とその局面について理解する。		
11	5 金融機関の働き 6 政府の役割と財政・租税 第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題 2 中小企業と農業		6	・金融と財政のしくみと課題について理解する。 ・日本経済のあゆみと近年の動向について理解する。 ・中小企業、農業がかかえる問題について理解する。	
三学期	1	3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障		7	・日本の公害問題と対応について理解する。 ・消費者問題と被害に対する防止について考える。 ・雇用環境の変化と今日の労働問題について理解する。 ・社会保障のしくみと現状について理解する。
		第8章 国際経済の動向 1 国際経済のしくみ 2 国際経済体制の変化 3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国 5 ODAと経済協力 第3編 共に生きる社会をめざして 持続可能な社会のために 排除しない社会へ 感染症の治療と予防	7		・戦後の国際経済体制の変化と近年の動向について理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国が抱える問題について理解する。 誰もが生産することができ、持続可能な社会のためには何が必要かを考える。
	2 ・				
年間時数計			64 時間(55分授業)		